

200歳万歳!

200歳まで生きる会
平成20年11月・第30号

イメージが現実をつくる

イメージすれば現実になる。これは、常々私が講演会やセミナーで述べていることです。これまでの考えでは、まず外に刺激があつて、それが原因となつて、人間は内なる反応をつくるという考え方になりますが、右脳のイメージの働きを取り入れて考えると、それがあべこべになります。内なるイメージが外の結果をつくり出すのですから。

たとえば、人がガンになるというのは、外にガンになる要因があつて、人はそれに影響されてガンになると考えるのが普通ですが、そうではないのです。内なる思い、内なるイメージがガンをつくり出すというのが、今はだんだん当たり前の考え方になってきています。そうして、内なるガンの思いを消せば、ガンは消滅するということが当たり前のよう理解される時代になってきているのです。右脳のイメージには強力な治癒効果があり、太古の昔から強力な治癒ツールとして、病氣治療に利用されてきました。

左脳には、情報伝達に言語回路を使いますが、右脳のイメージ情報伝達には、言語とはまったく違った回路が使われます。右脳のイメージには、人体組織や器官、細胞と更新する回路があり、それらに変化をおこさせることが可能なのです。

左脳の言語意識には、肉体に対するコントロール力がありませんが、右脳のイメージ意識には、肉体に対する100%のコントロール力があるのです。イメージでガンを消滅させた実例を紹介しましょう。

―佐世保のT. F. さんは、病院で検査を受け、直腸ガンと宣告されました。その上、さらに悪いことに、腎臓から膀胱に続く尿管がふさがつてしまい、排尿の機能が低下していたので、入院して透析治療を受けることになりました。治る見込みはなく、最初は暗澹たる思いでした。

ところが、T. F. さんはすぐに気持ちを切り替えました。深夜になると、好きな山登りやキャンプをしている自分をイメージし続けたのです。枕元にはキャンプ場の本や、登山ガイド、釣りやボートの本などが積み上げられました。

そうして2か月後には、すっかり治ったイメージを続けました。その上さらに、体に数本の管を体に挿したままで、電話ボックスまで行つて、キャンプ場の予約、野外レジャー用品のレンタル予約までする始末でした。その時までには手術も無事に終わつて退院している自分をイメージしたのでした。

やがて症状に変化が出てきました。それまでは、まったく出なかった尿がひと晩で1万5千ccも出て、パンパンに腫れていた体が元に戻つたのです。80キロあつた体重は、58キロまで下がりました。不思議なことに尿管が開いたのでした。あとはガンの手術だけでした。その前に再検査が行われました。するとどうでしょう。直腸ガンが消えていたのです。カメラにはオレンジ色の腸壁が見えるだけでした。

担当医師は非常に驚き、「こんなに忽然と腫瘍が消えた例は、日本ではこれまでに十数例しかない」と言われたそうです。

T. F. さんは、深夜にイメージ療法を続

けることで、こんな結果を得ることができたのです。

もう一つ、今日Yさんからいただいたお便りの内容を紹介しましょう。

Yさんは、お孫さんが、しちだの教室に通つておられるので、右脳のことをよく知っており、自分でも右脳の開発に興味を持つておられました。ところが昨年、左硬膜下血腫で400ccの内出血が左脳を圧迫した結果、言語と右半身が不随になられました。左脳の障害が起きて、左脳の活動が制限されたため、右脳の活動が活発になります。すると、右脳のイメージ力がよりよく使えることになりました。この右脳の特徴をYさんは、よく理解しておられたので、右脳のイメージを使って、すべての病状を消すイメージを続けた結果、一年後にはすべて完治してしまつたのです。そうして、そのことをレポートしてくださつたというわけです。

右脳のイメージの働きを知つて、健康長寿に役立てましょう。



200歳まで生きる会
会長 七田 眞

特集

シベリア健康法に注目が集まっている

シベリア人は、とても強健で美しく、健康であることが知られています。それを支えているのは、実は、シベリアの植物に秘められている、「アダプトゲン」という自然物質だということです。アダプトゲンは、飲むと生体能力がアップし、肉体の超人化作用があるといわれているのです。シベリアには、このアダプトゲン植物が豊かに自生しているといわれます。

ロシアは、半分以上は厳寒の広大な地域で、ここには天然資源の大部分が秘蔵、埋蔵されていて、地球の最後の宝庫といわれます。非常に寒い地域なので、乱開発をまぬかれてきました。この広大なシベリアは、あまりにも広いので、病院が少なく、病気になる人々はアダプトゲン植物を利用してきました。そして、それらは果実酒やハーブ酒として、健康エクスとしてロシア人に常飲されてきたのです。その伝統は今も失われておらず、モスクワやサンクトペテルブルグといった大都市に住む人々の間にも、広がっているということです。

アダプトゲンが注目されるようになったのは、ソビエトとアメリカで宇宙開発競争が行われ、宇宙飛行士の健康を守るために、ソビエトが健康食としてアダプトゲンを採用したことに始まります。モスクワオリンピックでは、旧ソビエトの選手は大量の金メダルを獲得しました。そ

の時、多くのソ連選手たちが「エレウテロコック」という黒い強壯エクス（アダプトゲン）を飲んでしたこと、世界中のスポーツ関係者の関心を呼ぶことになりました。このアダプトゲンは、反射神経や持久力、集中力などの肉体的能力を劇的に強化する力があることがわかり、各国のスポーツ選手たちに知られることから、その名前が知られるようになっていきました。そして今や、統合医療の一つとして、医学者の間に取り入れられるようになってきているのです。

統合医療は、一九九〇年代初頭にアメリカで生まれました。がんや生活習慣病など、すつきりと治りにくい病気の蔓延に苦しんでいたアメリカでは、一九九二年アメリカ国立衛生研究所に、「代替医療局」を立ち上げ、西洋医学以外のすべての伝統医療や民間療法、自然医学などを、国の医療政策に含めることにしたのです。今では、大部分の医科大学で、統合医療による治療が行われるようになっていきました。

シベリア健康法が一躍日本人の間に認識されるきっかけになったのは、「チャガ」の登場です。ソ連が崩壊してロシアになった一九九〇年代、チャガが日本に入ってくるようになって、一種のブーム現象が起り始めるようになったのです。

チャガは、サルノコシカケ科のキノコです。シベリアの奥地の農民たちは、何世紀も前からチャガを削り、煎じてお茶代わりに飲んできました。その村には、不思議なことに、がんが滅多に見られないことが昔から知られていて、チャガを飲んでいいるせいではないかと噂されて

いました。

それを医学的に確かめたのは、レニングラード第一医科大学とシベリア医科大学です。そうして、チャガの抗がん効果が医学的に証明されることになりました。

日本にも、まずこのチャガが導入され、以後続々と、シベリアのアダプトゲンが入ってきて、難病の治療改善にスピード感が出てきて、患者に喜ばれるようになったのです。これは、チャガの特急化効果として知られ、全国の薬剤師たちが活用しています。

レニングラード第一医科大学で始まった臨床治療では、チャガの疾病改善効果が次々に明らかになっていきました。そして、今もその研究が続いています。

末期の胃がん患者が、2〜4か月もすると、社会復帰していくケースがどんどん出始めてきたのです。第二弾効果は、チャガを飲み始めて一年半〜二年目にかけて現われるといわれます。余命宣告よりも、長い年月生き延びる例が見られるようになったのです。チャガは、初期に飲み始めるほど効果が高いことが知られています。チャガは、胃潰瘍のがん化を100%阻止するといえます。チャガには、他に類を見ない抗酸化力があるといわれます。それが、がん細胞の発生を許さないのです。

モスクワの統合医療院では、がん患者の全員にチャガの飲用を義務づけているということです。

チャガには、脳の老化を防ぐ働きもあります。脳の活性酸素を除去する働きがあつて、それにプラスして、アダプトゲン作用で身体能力を

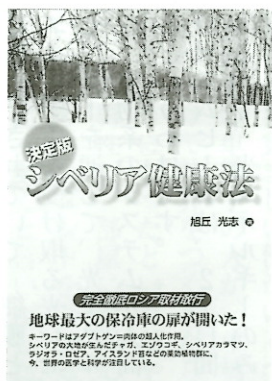
倍増させ、老化にブレーキをかけるといふ働きがあるのです。

チャガには強い利尿作用があつて、体内の悪い水分を調整します。飲み始めると、しばらくして尿がどんどん出始め、驚くほど大量に出て、腹水がひいていきます。チャガは、治癒改善の特急化効果があるという人もいるくらいです。

口内炎が一回飲んだらよくなったり、耳鳴りが一時間半で消えたといったレポートもあります。目のかすみはその日のうちに消えて、小さな字も読めるようになったなどという話があったりします。

アダプトゲンは、「ジクベルチン」「エレウテロコック」「ラジオーラ・ロゼア」などがあり、薬局で求められます。

出典…『シベリア健康法』旭丘光志著／メタモル出版／1,575円（税込）



トピックス

古代の叡智を活かす

『秀真伝（ほつまつたえ）』という本があります。これには、約三千年の昔、日本人はすごく長寿で、百二十歳、百三十歳では早死にだという記述があります。その頃の寿命は、二百歳、三百歳であつたというのです。

秦の始皇帝が不老長寿の薬を求めて、徐福を日本に遣わしたというのも、これならわかる気がします。その頃には、病気という概念がなかったそうなのです。食事は完全菜食だったということです。

その頃の人たちに病いという思いはなく、仮に病気になつても、病気がないと思えば病気は消えていくというのです。

ユダヤ教の聖典の旧約聖書によれば、多くの古代人は人生を何十歳単位でなく、何百歳単位で考えていたようです。アダムは九三〇歳、メトセラは九六九歳、ノアは九五〇歳まで生きたとしています。ノアは大洪水の時、方舟をつくりましたが、その時が六百歳で、その後三五〇年生きたと、ユダヤ教の聖典にあるそうです。

今の人たちは、こうした情報に接する時、それが真実を伝えているとは思わず、単なる神話だと思ってしまう。そのために古代の叡智を失ってしまいがちです。

人間の考え方の枠組みは、時代によって大きく異なります。五年、十年ではあまり大きく変わらないけれども、五〇年、百年ではもう大きく違います。常識が変わっていきます。それが五百年、千年ではどうでしょう。すっかり違っ

てしまうことが容易に想像できます。

けれども、人間はそういったことは考えもしないで、古代の考え方など、神話だとして理解しようとしもないのが普通ではないでしょうか。その時代の常識と、今の常識では大きく違う。昔の常識は単なる伝説で、そちらの方が真実を伝えているなどとは思ってもみないのが普通です。これは大きな落とし穴であると思いませんか。

ノルウェー出身の女性でオーストラリア育ちのジャスミン・ヒーンという女性がいます。彼女は、『リヴィング・オン・ライト』や『神々の食べ物』という著書があります。彼女は、古代の叡智を活かして、もう十数年も太陽の光を栄養として、食物はほとんど何も食べずに生きています。

彼女は、人類は一万三千年前は、植物と同様、太陽の光を光合成により栄養としてそれだけで生きるのが常識で、食物を食べることはなかった。ところが、ポールシフト（地殻変動）で、その時の人類が死に絶え、その頃の叡智が失われてしまったとし、その頃の常識を取り戻して、食を摂らずにいるのです。

実は、ジャスミン・ヒーンだけではありません。他にも人間は光合成だけで生きられるとして、もう何年も食事をしないで生きている人々が結構たくさんいるのです。そういう人たちは、ライトイーター（光を食べる人）と呼ばれています。この人たちは、食事をしないに関わらず、非常にふくよかで、体重を失っておらず、病気もせずに健康に過ごしているのです。この人たちの情報は、200歳まで生きる会の私たちに非常に有用な情報です。

この人たちの説くところに、少し耳を傾けて

みましよう。

人間には、本来動物生態系の他に植物生態系があつて、動物生態系は動きまわって餌を求めますが、植物生態系は一つところに留まつて、太陽と大地からエネルギーを得て生きるという生き方をします。人類は、その両方を兼ね備えているといふのです。人間の脳には光合成をする秘密が隠されていて、網膜と松果体が太陽の光エネルギーを受け取る光レセプターで、このレセプターを通して、光エネルギーを栄養に変える、植物系のシステムが人間の身体に残っているといふわけです。

ジャスムヒーンは、21日間の断食をすることによつて、光エネルギーのみで生命を維持することが可能になり、21日間を終えたと、もう生きるための固形物を食べる必要がなくなるとしています。そうして事実、彼女のセミナーを受けた少数の人たちは、ライトイーターに変身して、もう何年も食わずにいて平気というようになっていくのです。

この話は、太古の昔の伝説ではなく、太古の叡智を取り戻して生きている、現実の生身の人たちの話なのです。できればこれに倣つて、太古の叡智を大いに取り戻したいものです。

もう一つ、太古の叡智では、祈りが病いを癒す最高の手段だったので、その手法を活かせば、病いを軽く消すことができます。これは、身近に活かすことができる叡智なので、ぜひ学ばべきことでしょう。

ハワード・ウィルズ著の『生命の贈り物』（ナチュラスピリット社）は、「命の祈り」が心身の癒しをもたらすことを説いています。

私たちは、もともとスピリチュアルな存在で、エネルギーとしての存在なのです。祈りによつ

て聖なる存在とつながり、癒しを感じれば病いは癒えるとし、多くの祈りの仕方を説いています。そうして、実際に祈りによつて、短時日に難病を癒した例を紹介しています。たとえば、次のような例です。

Cさんは、医師に結腸癌だと診断されました。手術か化学療法が必要と医師は彼に告げました。彼は、この本の著者のハワード・ウィルズに相談して、「ゆるしの祈り」を二人で声をあげて唱えました。彼はハワード・ウィルズの言うことをすべて実行して、五日後再び医師のところに行くと、がんは跡形もなく消えていました。

Aさんは、医師に「あと三か月しか生きることはできない」と言われました。ハワード・ウィルズに会つて祈つたところ、一日でがんを消してしまつたのです。

Bさんもまた、「あと一、二か月の命だ」と医師に告知を受けました。でも、「命の祈り」を唱えることによつて、がんはすっかり消えてしましました。

そういう「命の祈り」が、この本には八つばかり紹介してあります。

今、祈りは昔のように宗教としてではなく、医療の最先端の学者たちによつて、最も効果の高い医療法として認められるようになってきています。日本でも、京都府立医科大学教授棚次正和さんと筑波大学名誉教授村上和雄さんによつて、『人は何のために「祈る」のか』という本が書かれ、祈りは生命の遺伝子を目覚めさせると説かれています。

太古の叡智が、今、急速に蘇りつつあることを感じさせられます。

健康情報 1

竹炭健康法

竹炭には、奇跡的な治癒力があります。院内感染がよく話題になりますが、竹炭を使うと、この問題が解決します。小さな箱に竹炭を入れてベッドの下に置き、患者の体の周りには、竹炭をティッシュに包んでおきます。すると、すぐにMRSAが陰性になつて解決します。

松枯れ病がありますが、これも枯れかけた松の根元に、竹炭を砕いたものを撒くと、二、三週間で枯れかけていた松が蘇生します。

ベッドで長く寝ていて、床ずれがして痛い病人は、竹炭シートを敷き、ただれたところには竹酢の湿布をすると、ただれが消えて、一、二週間でよくなる例が見られます。

寝たきりの九五歳のおばさんが、竹炭を二、三キロ新聞紙に包んで部屋に置いておいたところ、部屋の臭いが消えただけでなく、おばさんが元気になつて起きだしました。

アトピーのひどいのが治つたとか、アレルギーがよくつたとか、骨粗鬆症がよくつたリウマチがよくつたとか、考えられないような効果が出てきます。

味噌汁の中に十センチくらいの竹炭を入れて煮ると、味がとてもよい味噌汁になったり、味の悪い外米に竹炭を入れて炊くと、おいしいご飯になったり、竹炭は生活のいろいろな場面で使えます。

竹炭入りの風呂、枕、ふりかけにして食べた

り、健康食品として体内に摂取する方法まで用途が広いのです。環境にもやさしいエコロジー効果があり、毒ガスを無毒にするのにも炭が使われます。

犬がガリガリ竹炭を食べるのを見て、まねて食べた人が、二〇数年来の病気がすっかりよくなったという話もあります。

竹炭粉を小さじ一杯と、竹酢一CCをコップに入れ、水を満たし、よくかき混ぜて飲めば、血管中の毒物や、人体にとって不都合な成分や異物が腸の壁を逆透析して、腸内の炭に吸着されて出ていくと説かれています。

四国の「まむし捕り」のおじさんは、いつも竹酢液を指につけて、事なきを得ているそうです。血清も使わないのに、治るということですから、体内にいつも炭を摂り入れているので、免疫ができていられるのかもしれない。

他にも目覚ましい例がいくつもあります。

五四歳の車椅子の人が、車椅子の四方に竹炭を結びつけて結界をつくったら、腰に力が入り、歩けるようになったという話や、三一歳の引きこもりの男性が、部屋に竹炭で結界をつくり、胸に竹炭のペンダントを下げることで、六日目から外に出て働くと言いだした話。

三九歳の女性が乳がんで乳房が破裂し、ハンバグ大のただれがあったのが、竹炭の結界マットに寝て、竹炭粉、竹酢を使用することで、一八日後には完全によくなったという話があったりします。

二八歳の女性で、リウマチの激しい痛みで苦しんでいて、手のひら、足の裏には膿を持った

薬疹のあった人が、竹炭を摂ることで、急に体が熱くなり、薬疹が消え、十八日後の検査で、リウマチが完全治癒したという目覚ましい例や、竹酢の原液を、毎日五〇CCずつ半年飲んだ六〇歳の男性が、血圧、血糖値、肝臓値、すべてが正常になったという話。九一歳のおじさんが胃がんで、胃に穴があり、昏睡状態であったのが、竹炭のセットで三日目で意識が回復し、一週間で排泄が順調になり、意識を取り戻して二週間で腹がへったというようになり、検査すると穴がふさがっていた等の話もあります。

アルツハイマーの人にも、ぜひ竹炭セットを試してくださいとよいと、竹炭を長年研究しておられる新野めぐみ先生は言います。

竹炭になぜ、このような効果があるのでしょうか。人間が老化していくのは、体が酸化していくからです。竹炭には、還元作用があつて、酸化した体を、ちょうど松枯れした松の木が炭でよくなったように、竹炭が還元して元気にするのです。

炭には、このような強力な還元作用とエネルギー上昇作用があつて、がん、アトピー、糖尿病、肝臓病、便秘、神経痛、腰痛、肩こり、胃潰瘍、白血病、さらには頭髮を生じさせるまで幅広い薬効があるのです。

体全体の細胞の老化を防ぎ、血液や体液をアルカリ化し、浄化するという体内の毒消し作用があります。炭には、病気を治すだけでなく、病気になるにくい体をつくってくれる働きがあるのです。

老化を防ぎたい人にお金、のあまりからない、いちばんのおすすしめは、竹炭を利用することです。

波動共鳴活性療法とは、「若返り現象」が顕著に認められるようになるということです。この療法で血液が浄化され、血液力の上昇につれて、全身の細胞が元気になっていくからです。

とです。



健康情報 2

波動共鳴活性療法

波動共鳴活性療法には、「若返り現象」が顕著に認められるようになるということです。この療法で血液が浄化され、血液力の上昇につれて、全身の細胞が元気になっていくからです。

波動共鳴療法とはどんな療法でしょう。心臓を形成している細胞には、他の細胞とは異なる固有の波動を発しています。他の臓器もそれぞれ固有の波動を持ち、それぞれ異なる波動を持った細胞、臓器、器官が集まって、オーケストラのように人体を形づくっています。

波動は、エネルギーと言い換えてもよく、このエネルギーの異常現象が病気を生みだしていくのです。そこで、その異常エネルギーを消す波動を与えると、エネルギーが正常になって、病気がなくなるという現象が見られるのです。

波動共鳴活性療法では波動を測定し、波動転写器で全身の気の流れを整え、高次元のエネルギーと生体エネルギーを共鳴させて、心身のバラ

ンスを正常にします。また、波動グッズ「はりつこ」を痛みのところに貼って痛みを取ります。波動グッズを貼ると血流がよくなり、免疫を司っている白血球を活性化するなど、血液の働きをよくするのです。

すべての病気の原因は、血液力の低下、血行不良にあるのです。生体波動は、高次元波動との同調共鳴でバランスがとれ、血行促進や血液の活性化が図れます。活性化された良質の血液が良質の細胞を作って、全身の新陳代謝がよくなります。機能が低下した臓器や器官は自然修復されて、老化を鈍らせ、元気を甦らせるという訳です。

波動グッズを貼って若返り現象が起きたという実例を一つ見てみましょう。

68歳の女性が、波動グッズを貼る前に、肌を測定器でチェックしたところ、肌年齢81歳という結果が出ました。そこで、波動グッズを添付した後でチェックすると、66歳まで戻りました。

51歳のある男性は、波動グッズ添付後には、37歳の肌年齢と出ました。そのような効果を『血液力革命でアンチエイジング』菅野秋男著／現代書林／1,470円（税込）という本で伝えています。



健康情報 3

五分間暗示法

意識を失い、植物人間になった人にも、七田式五分間暗示法を使えば、意識を甦らせることができます。五分間暗示法は、病気で寝ている人に暗示の言葉を五分間繰り返してあげること、病人自身に心身を癒させてしまうという方法です。これは、意識を失った人にも通じる方法なのです。

五分間暗示法は、次のような言葉を、寝ている人の体をさすりながら唱えます。

「あなたは今寝ているけれども、私の言うことが聞こえています。あなたのことを、家族みんなが大切に思っています。あなたがすっかりよくなることを、みんなが心から願っています。あなたは宇宙と一体で、宇宙にはどんな病気でも治す力があります。宇宙と一体のあなたは、自分の病気をすっかり治すことができます。痛いところは痛みを消してしまえます。病んでいるところは癒してしまえます。ほら、どんどんよくなっています。悪いところがどんどん消えていきます。ほら、すっかり元気になりました」

このような言葉を五分間繰り返して、元気になる暗示をかけてあげます。あるいは、意識を取り戻す暗示をかけてあげます。これを一回だけでなく、一時間おきに繰り返してあげると、より効果が高まります。

最近、この方法を実践して、お父さんが奇跡的に意識を取り戻したと、お礼のお便りをいただきました。

きました。以下、お客様からいただいたメールです。

—私は十一歳、八歳、五歳の子どもを持つ母です。以前から七田先生の教育法に興味があり、著書などを読ませて頂いておりました。

今年の初めに『耳パワーが変える能力革命』を購入し、興味深く読んでおりました。

この夏、8月1日に私の父が路上で倒れ、心肺停止状態でしたが、偶然にも人工呼吸の知識のある方と、AEDが近くにあり、使える方がいらしたので、呼吸と心臓が動き始めました。救急車で緊急救命センターに運ばれましたが、昏睡状態で医師からは、非常に厳しい状態で脳死か植物人間状態であろうと告げられました。

私たち家族は毎日病院に通い、ICUで父の意識の戻るのを待ち続けました。

看護師さんが昏睡状態でも耳は聞こえている、と部屋で音楽をながしてくれた時に、七田先生の著書『耳パワーが変える能力革命』の「家族や友達をケアする五分間暗示法」を思い出し、ただ呼吸をするだけの父の耳元で毎日語りかけました。

父は一週間で意識が戻り、とても心臓が止まった人とは思えない程、よく喋り、経過も良く、あつという間に一般病棟に移り、担当医師からは、「奇跡です」と言われるほどの回復ぶり、8月の末に無事退院できました。

本人の生命力の強さ、治療的確さ、懸命に介護をして下さった病院スタッフの方々の力ももちろんありますが、私は七田先生の『五分間暗示法』の効力もあつたと固く信じています。

今回の父のことが新聞やテレビで緊急救命の大

切さ、その場でして頂いた人工呼吸、AEDの重
要さが取材されましたが、私はそれだけではない
と思っています。

父の回復は、『奇跡』としか言いようのないもの
だったからです。右脳のヒーリングパワーを教え
て下さった七田先生に感謝しています。ありがと
うございました。

M.T.さん(女性)

五分間暗示法は、祈りに通じるものです。意識
のない人の無意識に語りかけ、その人の無意識と
宇宙をつないであげると、何か偉大な力が働い
て治癒が行われるのです。

良書推薦コーナー

『祈りの法則』グレッグ・ブレーデン著／
ランダムハウス講談社／1,500円(税込)

『思考は現実化する』とか、『引き寄せの法則』
とか、『願望達成』の本がたくさん出ていますが、
にも関わらず願望が達成できないと訴える人々
がいます。これには、何が欠けているのでしょ
う。それをこの本の著者は、祈りの力が欠けて
いるのだと指摘します。祈りに大きな力がある
のです。その祈りのパワーを引き出すのに、古
代の祈りの叡智が失われていると説いて、その
秘密をこの本で解き明かしています。

まず、祈りに感情を添えることが大切です。
感情がいかに祈りに影響を与えるかを理解しま

しょう。

ニューメキシコ北部で、砂漠地帯が厳しい早
魃にあったことがあります。この時、デヴィッ
ドという人が、雨乞いの祈りをしました。祈り
は簡単に始まって、簡単に終わりました。「も
う、終わったの？」と著者はデヴィッドに聞き
ました。「雨のために祈ったの?」「違うよ。も
し、雨のために祈れば、決して雨が降ることは
ないよ。雨を祈ったんだよ」彼は、その日遅く
に、この言葉がどういう意味か説明してくれま
した。「何かのために祈り続けると、自分が変
えたいことに対して、もつと力を与えてしまう
ことになるだけなんだよ」そうすると、よかれ
と思つてなされた祈りが、反対の結果を生むの
だということです。

「もし、雨のために祈らなかつたら、何をした
の?」と著者が聞くと、デヴィッドは言いまし
た。「簡単なことだよ。雨はどのように感じる
かという、感情を持ち始めたのさ。身体に雨の
感覚を感じて、村の広場のぬかるみに立つとど
んな感じがするか感じたんだ。そこには、雨
がいつばい降ったからね」彼のその祈りで、や
がて大雨が降りだしました。

彼は、嗅覚、視覚、味覚、触覚に加えて、考
えや感覚、感情の力というすべての感覚を働か
せて祈ったのです。雨の祈りに続いて、感謝と
感情を込めてイメージすることが、祈りの感情
になることを説明してくれました。喜びと感謝
の気持ちを持つことで、体内の強力なホルモン
が活性化し、すると体内で引き起こされる化学
反応で、肉体を超えて、大きな影響が起ること
するのです。

デヴォットは、とうの昔に与えられたシンプ
ルな知識の中の洗練された内面の技術を、失わ
れた古来の叡智として教えてくれたのです。

何かを祈ること、イメージを添えること、そ
の時はイメージに感情を付け加えることが大切
と、私は常に説いています。もうそう言った状
態をイメージして、そして、それを心からみん
なで喜んでいてイメージをして、感情を爆発さ
せるのがよいのだと説いているのですが、それ
をやる祈りもイメージもシンプルに簡単に成
就するのです。

祈りやイメージがなかなか実現しないのは、
こうした古代の叡智が失われているからです。
祈りを成就させる古代の叡智はこれ一つに留ま
りません。純粹に心から信ずること、心の中で
平和を感じること、耐えること、祝福すること
などが、また他の条件としてあるのです。

とりわけ祝福について知ることが大切です。
怒りの感情を心の中に押し込めていて願つても、
願いは叶わないのです。すべてに祝福を与える
ことが大切で、すべてを祝福すると、苦しい経
験から自分を解放することができます。

では、祝福とはどのようにすることでしょう。
キリストは、「自分を罵る人を祝福しなさい。
自分を傷つける人。あなたを悪用する人。その
人のために祈りなさい」と言いました。それが
祝福です。「私は〇〇を祝福します」「自分が苦
しみを目の当たりにしていることを祝福しま
す」そういう祝福の仕方をするのです。自分の
最愛の子どもを失ったことを祝福するのです。
祝福とは、許し以上のことなのです。人は、祝

福ができないので苦みます。古代の心の叡智は、それを乗り越えるために祝福を教えています。祝福すると、心が解放され、祈りが成就するのです。

通常は、ひとは自分を悪く言う人、傷つける人を呪ったりするものです。それを逆に祝福すると祈りが叶うのです。もし、その逆をすれば、それは人を破滅の方へ導きます。これは、多くの人々にとって、最も難しいことですが、苦しみの原因を何でも祝福しましょう。この祝福ができれば、すばらしいことが起きるのです。

祈りのためには、美の理解も大切です。美は、最も理解しにくいものだと言います。美があるおかげで、私たちは変革を遂げることができると言います。私たちが日常体験することの中に、美を見出す習慣を身につけましょう。美をあらゆるものごとの中で見つける。美を受け入れるという習慣が、祈りを成就させるために必要と言います。美は変容なのです。美を見る力が世界を変えます。でも、その力は目覚めるまで眠っています。美は目を喜ばせる以上のもので、それは心、精神、魂の経験なのだと言います。美は、ありとあらゆるものに常に存在していて、絶対にないと思った場所にも見つけられる。自分を最も傷つけたものごとにも、魂の深いところに辿りついたなら、その瞬間に美が見つけれられ、古代の偉大な叡智が発見できるというのです。最も痛ましい経験の中にさえ美がある。癒しの元となる叡智に変える力ギが与えられている。美は苦しみを変化させるものなのです。

それでも祈りが成就しないという場合は、どう考えればよいのか。その時は、祈りを限りある時間に終わらせないで、一瞬一瞬を祈り続けようと著者は言います。ひたすら神につながって祈れということです。まとめましょう。次のプロセスで祈るとよいのです。

- 一、苦しみを教師とすること。諦めず希望を持ち、人生を新しい視点で見、そのプロセスを乗り越える強さを持つこと
- 二、すべてを祝福すること。人生の経験の新しい意味を通して、プロセスの中に美を見つけること
- 三、美によって苦しみを変化させること。肉眼を超えてものごとを見、調和やバランスを見、なぜ様々な出来事が起きたのか苦しみを理解し、トンネルの終わりに光を見ること
- 四、祈りに感情を添えること
- 五、自分自身の祈りをつくること。祈りは個人的なもので、自分に役立つ特別な言葉を見つけるとよい

著者は、そのように、失われた古代の秘密をこの本で説いているのです。



編集後記

十一月二日(日)に、東京都・永田町の全国町村会館で、一六四名の方たちが集まってくださり、盛会裡に200歳まで生きる会の第三回親睦大会が終わりました。会長のあいさつに始まり、当会の最長老、101歳の豊沢豊雄先生のごあいさつ、続いて94歳の千佛寺のご住職、隅井妙典さんのごあいさつと続き、始終和やかなムードで会の進行が行われました。

お昼時間には、原若公子さん、久美子さんご姉妹の神楽舞に続き、会員の皆様にブース体験をしていただいて、賑わいました。この日の様子ご報告してくださる、出席してくださった会員様からのお便りを一通紹介させていただきます。

—この度の、200歳まで生きる会の第三回親睦大会の大盛況おめでとうございます。(中略)会費が安くして申し訳ないと思える程の美味しい豪華なお弁当に楽しい抽選会、お心配り細やかなスタッフの方々、満ち足りた思いで帰途につきました。家内ともども心からの感謝を申し上げます。

当日は、何分忙しさのため、ご出席の皆様には十分な心配りができず、満足いただけなかったことも多々あると思い、深く反省しております。何卒、行き届かなかった点は、ご寛恕くださいますようお願いいたします。

【発行人】

七田 眞

【発行所】

「200歳まで生きる会」

〒695-0011 島根県江津市江津町527-15

TEL 0855-5215301

FAX 0855-5215797